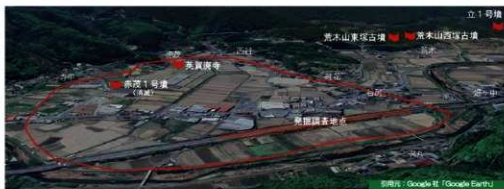


すげーのー 谷尻遺跡

【会期】 令和6年10月26日～12月7日
【会場】 真庭市北房ふるさとセンター
【主催】 西の明日香村コンソーシアム



発掘調査地点の全景
(岡山県古代吉備文化財センター提供)



谷尻遺跡の範囲と発掘調査地点

谷尻遺跡とは？

谷尻遺跡は真庭市上水田にある縄文時代から江戸時代にかけての遺跡で、約55,000㎡と備中北部最大級の広さを誇ります。このうち谷尻地区では、中国自動車道建設に伴い1973年(昭和48年)から1975年(昭和50年)に発掘調査が行われました。

約14,000㎡におよぶ大規模な発掘調査では数多くの成果がありました。とりわけ県内最大級となる古墳時代の住居の発見や近畿地方など他地域の特徴を持つ土器が大量に出土したことで注目され、以降古代吉備北部の研究上重要な位置を占めています。

現在、発掘調査の出土品は岡山県教育委員会が所蔵し、岡山県古代吉備文化財センターで保管されています。

1 谷尻遺跡のはじまり（縄文時代から弥生時代後期・約 11,300 年～約 1,800 年前）



No130 土坑
(岡山県古代吉備文化財センター提供)



縄文土器（谷尻式）と
スクレイパー、石鏃

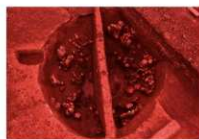
谷尻遺跡から発見された出土品で最も古いものは縄文時代早期（約 11,300 年前）の押型文土器の破片です。それ以降も縄文時代後期から弥生時代中期にかけての土器や石器が断片的にみつかっています。

特に縄文時代晩期（約 3,200～2,650 年前頃）の No130 土坑からは多数の土器・石器が出土しました。土器はその文様や特徴から「谷尻式」と命名され、岡山県内の縄文時代晩期中頃の土器の基準資料となっています。

一方、谷尻式の縄文土器とともに出土した石器には、地元で採取できる緑色片岩や結晶片岩製の石鏃や香川県産サヌカイトで作られたスクレイパー（石鎌とも呼ばれる）が含まれていました。これらの石器の存在は、備中川沿いの低地を開墾する形で植物栽培が行われた可能性を示しています。

さらに弥生時代後期になると、調査地点北東付近で、約 60 もの土坑墓（穴を掘って作ったお墓）が発見され、この一角は墓域として利用されたようです。

2 集落の形成と交流（弥生時代終末期・約 1,800 年～約 1,750 年前）



No176 土坑
(岡山県古代吉備文化財センター提供)



在地の土器

有名な邪馬台国の女王・卑弥呼が活躍していたのとほぼ同じ頃、谷尻遺跡では住居が築かれはじめ、本格的に集落が営まれるようになります。竪穴住居とともにみつかった No176 土坑からは 150 点を超える多量の土器が出土しました。谷尻遺跡のように、地元で作られた土器だけでなく吉備（今の岡山県南部）、近畿、山陰、讃岐（今の香川県）など様々な地域に由来する土器が多く出土していることは備中北部では例がなく特に注目されます。

どうして各地の土器が北房の地にもたらされたのでしょうか。この時期、他地域の土器が発掘で出土する事例が全国的に増加します。その背後には、地域間での人やモノの移動や交流が活発になってきたと考えられています。吉備は弥生時代後期の終わり頃から出雲など山陰地域との繋がりを深めていきますが、備中北部や美作地域では、この南北方向に加え、東側の近畿方面からの人や情報の流入も強まってきます。

谷尻遺跡はそうした吉備や近畿と山陰を繋ぐルート上の重要な継地として様々な人やモノが行き来していたと考えられます。



吉備系土器



近畿系土器



山陰系土器



讃岐系土器



No190 住居
(岡山県古代吉備文化財センター提供)



出土した土製品

火事にあった住居

No190 住居は火事にあい、当時のままで放棄され埋まっていた唯一の住居です。直径約6mの円形で、中央には炉があったようです。床面には21点の土器や石器が残されており、低脚杯や鼓形器台など山陰系の土器が大部分を占めています。また、パイプ形や勾玉形の土製品や極小の手捏ね土器といった、当時の人びとの祈りのための道具も出土しました。

3首長居館あらわれる (古墳時代前期・約1,750年前～約1,600年前)

古墳時代に入っても、弥生時代終末期に引き続き谷尻遺跡には、吉備(県南部)や近畿地方の土器が多く流入してきます。一部には移住してきた人がこの地で製作したと考えられる土器もあります。

発掘調査地点で見つかった住居跡は時期別にみると数軒程度ですが、そもそも調査地点は広大な谷尻遺跡の北端にあたり、調査地外に住居跡が密集する可能性は十分考えられます。それは、ここが備中川沿いの低地に面し、南側には広大な高台が広がるという、北房で最も地形的条件の良い立地であり、弥生時代から古墳時代を通じて北房における拠点的な集落が維持され続けたものと考えられます。

そして、古墳時代前期中葉(3世紀末頃)になると、県内最大級の大型住居が築かれます。約12m×12mの方形を呈すNo191住居からは、近畿・吉備等と各地域の特徴を持つ土器とともに、出土例が少ない貴重な青銅製品「巴形銅器」が出土しました。集落内にありながらも周辺の住居に比べ際立って大きく、溝によって区画される姿は、まさに北房を代表する首長の居館と呼ぶにふさわしい内容を示しています。

この大型住居の時期は前期中葉前半(約1,700年前頃)とみなされますが、谷尻遺跡から南へ約1.2kmの丘陵上にある、北房最古の首長墳と考えられる荒木山東塚古墳(前方後方墳)もこの頃の築造と想定されており、東塚の被葬者がこの居館の主だった可能性もあながち否定できません。東塚に次いで、古墳時代前期後葉(4世紀中葉～後葉)には、荒木山西塚古墳(前方後円墳)が築かれます。谷尻遺跡のNo177溝からは西塚出土土器と同時期の土器が出土しています。

北房地域の拠点集落である谷尻遺跡と北房を代表する荒木山東塚・西塚古墳は密接な関係であったと考えられます。



大型住居 (No191 住居)
(岡山県古代吉備文化財センター提供)



大型住居 (想像図)



大型住居出土土器



No177 溝出土土器



巴形銅器
(全径8cm、重量42g)

巴形銅器は楯や鞆(矢を入れて背負う箱)の飾り金具とされています。本品の脚裏面には有機物の付着痕跡が認められ、革製楯などの武具に装着されていたと推定されます。また大型住居から出土しており、吉備中北部の拠点交流の中で、当地の首長に伝わり「伝世品」となったと考えられます。

岡山県内では古墳時代中期の伝千足古墳出土品があり、鳥取県では本品と同時期のものが2例あります。〈三輪 能章〉



巴形銅器を付けた楯を持つ武人
(想像図)

4 新たな文化・技術の波及

(古墳時代中期・約 1,650 年～約 1,500 年前)

古墳時代中期になると、倭の五王を中心とした活発な対外交流により、多くの渡来人が日本列島にやってきた結果、朝鮮半島をはじめとする大陸の文化や技術が列島に伝わってきました。

「須恵器（すえき）」と呼ばれる登り窯で高い温度で焼成して作る固い土器がその代表です。また、底に小さな穴のあいた「甗（こしぎ）」という土器と「カマド」も伝わってきます。

カマドの上に置いた甗に水を入れ、その甗の上に甗を置くことで、甗に入れた米を水蒸気により蒸して食べるになることができるようになります。蒸し料理には強い火力が必要になるため、住居の壁際にはカマドが作られるようになり、当時の人々の食生活にも大きな変化をもたらしたでしょう。

谷尻遺跡では古墳時代中期終わり頃（約 1,500 年前）の住居にカマドが設けられていたり、須恵器が出土するなど、内陸にある北房にも新たな文化や技術が波及してきたことが分かります。

続く古墳時代後期（約 1,500 年～約 1400 年前）の住居は 12 軒見つかっており、古墳時代を通じて地域社会における拠点として谷尻遺跡とそこにいた勢力は重要視されていたものと考えられます。

おわりに

50 年前の発掘調査では谷尻遺跡が弥生時代から古墳時代にかけて集落が継続して営まれ、人やモノの地域間交流で賑わう備中北部最大の拠点的な集落であったことを明らかにしました。

吉備や近畿と山陰（出雲）を繋ぐルート上の重要な中継地点という役割は、北房地域全体の特性でもあり、古墳時代が終わった後も飛鳥時代の大谷・定古墳群築造や英賀郡衙（郡役所）の設置、さらに時代が下っても中国道・岡山道がクロスするなど、現代まで一貫して続くものであります。谷尻遺跡から出土した品々は、北房地域のそうした変わることのない在り様を静かに物語ってくれています。



須恵器（左）と甗（右）



カマドのある竪穴住居
(岡山県古代吉備文化財センター提供)



カマド（想像図）



谷尻集落の秋の暮（想像図）

北房ふるさとセンター開館 40 周年
谷尻遺跡発掘 50 周年

記念特別展

すけのー、谷尻遺跡

TANJIRI

本特別展及び資料作成にあたり、次の機関、皆様からご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

岡山県教育庁文化財課
岡山県古代吉備文化財センター
河合 忍
白石 純
高畑知功
同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター

北房文化遺産保存会
真庭市北房振興局
行田裕美
米田亮彦
和田 剛

(50 音順、敬称略)

展示品は全て岡山県教育委員会が所蔵し、岡山県古代吉備文化財センターで保管されています。

開催期間
会 場
資料作成

令和 6 年 (2024 年) 10 月 26 日 (土) ~ 12 月 7 日 (日)
真庭市北房ふるさとセンター
新谷 俊高 (真庭市教育委員会生涯学習課)、宮本かつみ (同)、
三橋 龍洋 (北房文化遺産保存会)
イラスト作成: 梶田 正博 (北房文化遺産保存会)
別紙 1 編年表のみ: 河合 忍 (岡山県教育庁文化財課)
真庭市教育委員会
〒719-3202 岡山県真庭市久世 2927-2 TEL: 0867-42-1094
(令和 6 年 (2024 年) 10 月 26 日発行)

発 行

本資料は会場配布のみとなります

時代	時期	年代	谷尻遺跡のできごと	北房・岡山・日本のできごと
縄文時代	早期	約11,300年前	押型文土器が出土する。	
	前期	約7,200年前		気候の温暖化による縄文海進が進む。
	中期	約5,400年前		
	後期	約4,400年前		海退が進み、岡山平野が形成される。
弥生時代	晩期	約3,200年前	No130 土坑から「谷尻式」土器や石鍬、スクレイパーなどの石器が出土。	九州北部で稲作が始まり、弥生時代が開始する。
	前期	約2,650年前		県南部の津島遺跡（岡山市）で水田が確認され、弥生時代がはじまる。
	中期	約2,380年前		青銅器や鉄器の使用が始まる。県北部で本格的な水稲農耕が開始。
	後期	紀元1年（1世紀）	約60基の土坑墓が作られる。	西暦1年 倭の奴国が後漢から金印を賜る。
	終末期	201年	堅穴住居跡が確認され、他地域の土器が出土ようになる。 No190 住居が火災にあう。 No176 土坑から他地域の土器が大量出土する。	200年 橋築遺跡（倉敷）で墳丘墓が築かれる。
		239年		邪馬台国の女王・卑弥呼が中国に使者を送る。
	古墳時代	前期	3世紀中頃	
		4世紀	大型のNo191 住居が作られる。 No177 溝が掘られる。	300年 荒木山東塚古墳が築かれる。 荒木山西塚古墳が築かれる。
中期		4世紀末	住居から須恵器が出土する。 No107、No180 住居にカマドが取り付けられる。	400年 倭の五王が宋に使者を送る。須恵器の生産がはじまる。県南部で巨大な古墳が相次いで築かれる。
後期		5世紀末		500年 仏教が伝わる。県北部で横穴式石室が作られはじめる。
		6世紀末	（赤茂地区）赤茂1号墳が築かれる。	前方後円墳の築造が停止する。
飛鳥時代				
		8世紀初	（赤茂地区）英賀廃寺が造営される。	乙巳の変（大化の改新）。 700年 大谷1号墳が築かれる。 大宝律令。国号が倭国から日本になる。